

平成27年度 事務事業マネジメントシート

事業名	図書館・博物館事務管理事業			会計	款	項	目	大事	小事
政策	03	3節	学び、受け継がれ、進展する流山（教育・文化の充実向上）	主管課	図書・博物館				
施策	3-1	いつでも、どこでも、誰もができる生涯学習の推進		主管課長	小栗 信一郎				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	図書館及び博物館の庶務的事務	意図	事務処理を効率的に行う。
事業内容	図書館及び博物館の庶務的事務の実施			
事業開始から現在までの状況変化	平成13年度から財務会計システムが導入されたことにより伝票作成時間が増加したが、処理日数は短縮された。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
指標	① 伝票事務の処理件数	2,534	2,867	2,815	件	→→	
	②						
	③						
	④						
指標で表すことができない定性的な成果	課の庶務的業務を担っている。					目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）	
事務事業のコスト	平成25年度	平成26年度	平成27年度	図書館及び博物館に関する業務を支障なく運営することができ、利用者の学び・研究する意欲に応えることができた。			
事務事業の総コスト(a=b+c)	4,942,042	4,908,770	4,794,414				
事業費(b)(円)	4,942,042	4,908,770	4,794,414				
うち一般財源	4,942,042	4,908,770	4,794,414				
職員給与費(c)(円)							
人役・職員(人)							
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円) (建設又は取得年度のみ記入)							
想定耐用年数 (年) (建設又は取得年度のみ記入)							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	B 必要性は変わらない	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続 (事業を現状どおり継続すべき)					

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H27)の改善計画	図書館及び博物館が日常業務を滞りなく進めるため、効率的な事務管理を行う。
②今年度(H27)に実施した取組	ペーパーレスの励行と光熱水費の抑制を図るとともに、伝票作成等庶務的な事務を集中管理した。

③取組の課題	休日が市役所と異なるため、伝票作成・入力期限等に注意を要する。
④今後の改善計画	伝票処理、委託契約事務等については今後も継続して事務の効率化を図る。